

資料 1

前回子ども・子育て会議主な意見のまとめ（第3回の振り返り）

議案内容	項目	内容	事務局の回答等
1. 前回審議について	小数意見への焦点	多数意見の把握だけでなく、少数意見(障害児)について焦点をあて、障害児施策の底上げを図るようお願いしたい。	
	児童育成クラブ	夏季等の長期休暇中のニーズが高いことを踏まえる必要がある。	
		申込率について、各学区の児童数を教えてほしい。	今回、資料 4(参考資料)を当日配布します。
		児童数が少なく入りやすい地域は、高学年申込率が高い状況がうかがえる。	
2. 次世代育成支援対策地域行動計画の平成 25 年度実績について	認知度等	リーディングプロジェクトの認知度において、横ばいや下がっている事業について、認知度を上げる取組みをどのように行っているか教えてほしい。	地域子育て支援センターとして、広報等に加え、平成 23 年度から、子育て応援サイト等で情報発信している。
		発達支援について、必要な人に情報が行きわたっているかどうか難しい。親の認知や啓発が重要な要素である。	5 歳児相談や保育所などでの発達相談等、様々な事業により、取り組んでいる。
		発達支援に対する親の認知と実際の認定の状況はどうか。	保護者への説明をした中で認定や加配等の対応をしている。二次障害を起こさないために、保護者への対応が重要
		・ぼかぼかタウンのブログはとても良い。ホームページより、ブログの方がよいのではないか。 ・様々なメディア、選択肢により、広報に努めて頂きたい。	
3. 子ども・子育て支援事業計画の事業内容および需要の見込みについて	人口動態	本市の人口転出入や増加地域の状況はどうか。	H25 から H26 において、人口全体で 1,569 人増加している。0-5 歳児や、地域的には志津、渋川、笠縫小学校区の伸びが大きい。

議案内容	項目	内容	事務局の回答等
3. 子ども・子育て支援事業計画の事業内容および需要量の見込みについて	幼児教育 保育	幼稚園、保育所の過去5年実績を示してほしい。	今回、資料4に記載しました。
		子どもにとっては、迎えの時間の違いなど、教育、保育で認識できるものではない。大人の都合で分かれており、実際、幼稚園と保育所の違いをどのように保護者が受け止めているか。	幼保一体化の検討においても、長時部や短時部、迎えの時間について議論になっており、課題整理や保護者の不安解消等を行いながら、幼保一体化を推進していきたい。
		多様な主体参入促進事業には、法人も入るか。	社会福祉法人、学校法人に加え、NPO法人等様々な法人が対象となる。
	病児保育	病児保育の需要が急増しているが、対応できるか。	弾力運用を行いながら、今後の潜在的なニーズに対応していきたい。
	ファミリーサポートセンター	利用者増が見込まれる中、提供会員の確保が重要。具体的な手法があれば、示して頂きたい。	様々な手段により、広報啓発をしていきたい。
その他	発達障害は、一般的な人口推計や国指針の家庭類型等に当てはまってこない部分があるので、障害児施策検討にあたり、量の見込みを見誤らないよう、弾力的に判断していく必要がある。		
4. 待機児童解消対策緊急事業の実施について	事業者確保	事業者確保の見込みはどうか。事業者側も厳しい。補助など、確保に向けて、できるだけのことをして頂きたい。	補正予算の内容に基づき、事業者確保に向けて、取り組んでいきたい。